

上越教育大学研究プロジェクト 終了報告書（特別研究）

研究代表者 所属・職名 臨床・健康教育学系・教授

氏 名 笠原 芳 隆

研究期間 令和元年度 ～ 令和2年度

研究プロジェクトの名称	各教科等の授業における教科教育と特別支援教育の専門性を生かした合理的配慮の設定とその評価に関する実践的研究
研究プロジェクトの概要	<p>支援の必要な子供に対して、教材開発を含めた教科教育と特別支援教育の両面からとらえた適切な合理的配慮を設定し、その評価を行うための資料及び合理的配慮設定の手続きや評価に関する手引き作成の資料を得ることを目的に、以下の点を明らかにした。</p> <p>【令和元年度】</p> <p>① 小・中学校等で各教科等の授業計画を立案する際の、支援の必要な子供への合理的配慮の内容と設定の手続き、授業を実施した後の合理的配慮に対する評価の実態</p> <p>【令和2年度】</p> <p>② 全国の教育委員会等における適切な合理的配慮の設定と評価に資する特別支援教育関する手引き等の作成・公表状況と内容の実態</p>
<p>研究 成 果 の 概 要</p> <p>※申請時にチェックした「取組課題」との関連とその成果も明記すること。</p>	<p>【令和元年度】研究①</p> <p>対象児の実態情報収集と合理的配慮内容検討や関係者への配慮内容共有の手続き、そして配慮の評価の手続きについては、教員一人で進めるのではなく、対象児にかかわる複数人で進めているケースが多いことが明らかになった。合理的配慮の検討機会やその情報の共有機会については、学校の仕組みとして、すなわち学校体制として設定されているケースが割合として比較的高かったが、配慮の適否について評価する機会は必ずしも高いとはいえない現状が見られた。配慮の適否を評価し、配慮実施の結果をその後の配慮内容に反映させる体制づくりの必要性が示唆された。</p> <p>【令和2年度】研究②</p> <p>対象となった多くの教育委員会で、特別支援学校以外の教員も対象に含めた特別支援教育に関する手引きやマニュアルを作成・公表しており、その内容も特別支援教育や「合理的配慮」や「基礎的環境整備」を含むインクルーシブ教育に関する理念・制度的な内容から、教育課程編成、個別の指導・支援計画作成・活用、指導実践例まで、特別支援教育推進に必要な内容を幅広く盛り込んだものになっていることが明らかになった。</p>
研究 成 果 の 発 表 状 況	日本特殊教育学会第58回大会（福岡大会）及び上越教育大学特別支援教育実践研究センター紀要第27巻において、それぞれ研究成果の一部を発表した。
学校現場や授業への研究成果の還元について	小・中学校通常の学級で合理的配慮を行いながら授業を実施している教員や、本学先端教科・領域開発研究コースで当該所属教員と修士課程特別支援教育領域所属教員が共同で行っている授業「教科等の学習活動における困難の実態と支援」の授業を履修している院生に、合理的配慮の内容と設定の手続きや評価の方法、特別支援教育推進に関する情報を提供できるものとする。